

	学校名：江戸川区立小岩第四中学校	
	氏名：奥村直之	● 実践教科等：道徳・特別活動
		● 時間数：5時間
THAILAND	[担当教科：国語]	● 対象生徒：2学年
		● 対象人数：110人

1 単元名

世界平和の実現に向けて、発展途上国に対し私たちができることを考えよう

世界平和と人類発展の視野に立って、自分の生き方について考えよう

2 単元の目標

発展途上国の抱える問題を知り、支援の必要性を知る。(道徳)

国際協力機構の支援を知り、持続可能な社会の実現する支援について理解する(道徳)

持続可能な社会を実現するためには、どのような取り組みが重要か考える(道徳)

発展途上国に対し、今の自分が何をすべきかについて考える(特別活動)

国際的視野に立って、今後どのように生きていくかについて考える(特別活動)

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(ESDの視点に基づいて)

(1) 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る・子供の多様な考えを引き出す

課題について多様な意見が出る複数の課題設定を行い、意見交流を行う前に必ず自分なりの意見を持つ時間を設ける。課題についての知識は、生徒に考えさせる前に入念に習得させる。

(2) 考えを深めるために対話のある活動を導入する

自らの考えを深めるため、複数の課題についてグループで意見を交流する場を複数設ける。

(3) 考えるための教材を見極めて提供する

独立行政法人国際協力機構(以下JICA)の国際理解教育実践資料集および自作教材より、生徒の思考を広げ、深める課題を設定する。

(4) すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する

生徒の課題について考える力を養うため、複数の課題について、①自分なりの考えを持つ、なぜそう思うのか理由もまとめる→②グループで自己の考えとその理由を交流し、考えを広げる→③振り返り学習(作文)を行い、自己の考えの深化と変容を確認させる。

(5) 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する

意見交流を終え、考えを広げた後、文章を書かせ、課題について振り返らせる。また作文を通して自己の変容を自覚させる。

4 単元の指導について

(1) 教材観

本単元においては、世界の格差や世界規模で考えたときの日本の立場、途上国の貧困の状況、日本と諸外国との相互関係、日本の国際援の在り方等について理解し考えさせる必要がある。そこで、以下のような教材を活用したい。

世界の格差・日本の豊かさを理解させるもの・途上国の貧困の状況を理解させるもの

日本と諸外国との相互関係がわかるもの・国際支援の在り方について考えさせられるもの

(2) 生徒観

生徒は貧困や経済格差等の世界の現状を踏まえた国際支援の重要性については、あまり理解できていない。本単元において、生徒には持続可能な社会を実現するための支援の在り方について考えさせる必要がある。また、中学生にとっては、「自分が諸外国に何ができるか」という問いは難解であり、かつ実際にできることも少ない。JICAの活動(青年海外協力隊派遣、円借款によるインフラ整備支援など)を多く理解させ、将来の自分にできることを具体的にイメージできるようにしたい。

(3) 指導観

本単元においては、はじめに途上国の現状や、JICAの支援について理解する。これらについての基礎的な知識を定着させた上で、以下の内容について考え、自分の意見をまとめたり、他人と意見を交流したりし、自己の考えを深める機会を設ける。JICAは自国と途上国の相互利益を目的とした

機関であることについても言及する。相互利益をもたらす支援を実現させることが、戦争やテロリズムの抑制につながり、世界平和の可能性となることを強調したい。

また、JICAの活動を紹介し、日本が高い水準の教育や技術を提供する支援を行っていることについて、学びの意義についても意識させる。また、生徒は途上国の「学校に行けないために働くための技術が身に付かない」ことを学ぶ。学ぶことで豊かな生き方ができるようになることを理解し、国際的な視野から自分が今後どのように生きていくかについても考えさせる。つまり、国際理解・人類愛といった道徳的な視点だけでなく、人間の生き方についての自覚等の視点を含めた横断的な指導をしていくことができるのである。

5 評価基準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
評価規準	● 途上国の現状についてより深く理解し、支援の重要性を理解しようとしている。 ● 途上国に対し、自分にできることを考えている。 ● 国際的な視野に立って、将来自分が何をすべきで、将来に向けていま何をすべきかについて考えている。	● 途上国の貧困の状況について考え、自分なりの意見を持ち、文章にまとめている。 ● 日本をはじめとする先進国の特徴をとらえ、途上国に対する適切な支援について考え、発表している。	● 途上国の現状について理解している。 ● 先進国と途上国の格差について理解している。 ● JICAおよびJICAの支援内容について理解している。
評価方法	ワークシート・話し合い活動の観察、発表内容・作文の作成、発表		

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容【予想される返答】 全：全体学習、グ：グループ学習、個：個別学習
1	発展途上国の現状を知ろう	途上国では、日本では想像ができないような貧困が発生しており、支援が必要だということを知る。	● 後発展途上国の現状を知る。(全) 「写真から見て取れる『この国に足りないもの』を挙げよう。」 【浄水場・家・道路・家族・親・仕事・お金・食料・幸せ・平和など】 ● 先進国を知っている限り挙げる。(全) 【アメリカ・イギリス・日本・フランス・ドイツ・イタリア・カナダなど】 ● 日本や欧米諸国がどれだけ恵まれているかを知る。(全) ※もし世界が100人の村だったら 「日本を含む先進国が大部分の富と資源を有していること」、「先進国に住む人の割合は思いのほか少ないこと」を理解させる。 ● 平等とは何かについて考える。(個→グ) ※ワークシート①「状況に応じ、ケーキをどのように切り分けることが平等か考える。」 【ケーキは同じ量に切り分ける・ケーキは各々の状況に応じ量を変えて切り分ける】→答えはない。皆が納得する切り方ができていればそれが平等である。しかし、世界規模では平等な分配ができない。なぜだろう。 ● 授業の感想を書く。(個)
2	JICAの存在を知ろう	貧困の連鎖をしり、先進国の支援の必要性を知る。 JICAの支援について知り、日本が諸外国にできることについて考える。	● 貧困の連鎖について考える。(グ) ※国際理解教育実践資料集 貧困の連鎖カードを並べる 学校に行けない→読み書きができない→働くための技術や能力が身に付かない→収入の安定した仕事に就けない→収入が少ない→十分な栄養が摂れない→病気になりやすい→仕事ができない→子どもが親の手伝いをしなければならない→学校に行く時間がない→自分の子どもも学校に行けない ● 貧困の連鎖を断ち切る活動の存在(JICAの存在)と活動内容を知る。(全)※JICA配信動画“Starting Line” ● 貧困の連鎖を断ち切る方法を考える。(個→グ) ※ワークシート②どの支援を優先するか 教師の派遣・浄水場の建設・食糧の供給・農地の開拓・働く

			技術の伝授・医薬品の支給・医師の派遣・学校の建設・お金の支給 →答えはない国によって何が必要かを考える姿勢が大切 ● 諸外国の支援を行うには、先進国の力（教育力・医療・工業技術力、経済力など）が必要だということを理解する。（全） ● 授業の感想を書く。（個）
3	持続可能な社会を実現する支援を知り、私たちにできることを考えよう	持続可能な社会を実現する支援を考えられるようになるとともに、その活動の意義を理解する。	● 持続可能な社会を実現する支援について理解を深める。（全） 募金・食料や衣類の支給→急を要する一時的な支援 教育やインフラの整備→時間がかかる持続可能な支援 ● 持続可能な社会を実現する支援の必要性を知る。（全） ● 我々が途上国のためにやらなければならないことについて考える。（個→グ） 【テーマ】 あなたは貧困の連鎖を断ち切るために選ばれた、使命感に燃えるJICAの所長です。あなたはまず、どの分野の問題を解決するようJICAの職員や青年海外協力隊員に指示を出しますか？ 【教師や医師の派遣・学校や病院の建設・浄水場や発電所の設置など】 ● JICAの活動を改めて紹介し、持続可能な支援が主であることを理解する。（全） ※タイの研修で視察をした活動の画像
4	持続可能な社会を実現する支援をまとめよう	自分が将来できる持続可能な社会を実現する支援について考えをまとめる。	● 「日本にできる持続可能な支援」「国際的視野にたって、いま自分がやらなければならないこと」というテーマで作文する。（個）
5	持続可能な社会を実現する支援について考えを広げよう	自分がいまやらねばならないこと、自分が将来できることについて、他者の意見を聞く。	● 作文の発表を各グループで行う。（グ） ● よく書けている文章を聞く。（全） （教師が選定した文章を、本人が朗読する）

7 授業事例の紹介

小単元名【我々が途上国のためにやらなければならないこと】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月12日(月)第2時 9:45～10:35 (イ)実施会場 二年一組教室

(ウ)本時の目標

- ・途上国のために、日本に何ができるかを考える。
- ・国際的視野に立って、将来に向けて今自分がすべきことについて考える。

(エ)指導のポイント

- ① 途上国が貧困に苦しんでいる現状を背景に、自分たちに何ができるかを考えさせるとともに、他者の意見を聞き、思考を広げる。
- ② 貧困の連鎖を打ち壊すために、優れた教育や医療、技術、経済力等が必要という知識に基づき先進国である日本だからこそできることについて考えさせる。
- ③ 日本人が社会基盤や教育の整備、技術力によって豊かな暮らしができていていることを強調し、学びの意義について考える。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 五分	第二時の学習活動を確認させる。	● 貧困の連鎖について、復習する。 ● JICA(青年海外協力隊)の活動について復習する。	一斉	● 貧困の連鎖は自力で抜け出すことが困難であり先進国の支援が必要であることを理解させる。 ● 支援には経済力・教育力・技術力が必要だということを理解させる。	

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

展開	緊急の支援、持続可能な支援の特徴と、その必要性について理解させる。	<table><tr><td>募金 衣類の寄付 物資の支給 食糧の支給</td><td>即効性あり 持続しない</td></tr><tr><td>医師の派遣 病院の設立 教師の派遣 学校の設立 発電所の建設 貿易港の建設 農地の開拓 ごみ処理施設の建設</td><td>即効性なし 持続可能 ↓ 持続可能な社会へ</td></tr></table>	募金 衣類の寄付 物資の支給 食糧の支給	即効性あり 持続しない	医師の派遣 病院の設立 教師の派遣 学校の設立 発電所の建設 貿易港の建設 農地の開拓 ごみ処理施設の建設	即効性なし 持続可能 ↓ 持続可能な社会へ	一斉	● JICAの目的は発展途上国が独り立ちできるようにすることであり、持続可能な支援を行っていることを理解させる。	貧困の連鎖を断ち切るべく、持続可能な支援について自分なりの意見を考え、適切に文章にまとめることができる。 (グループ学習用ワークシート)		
募金 衣類の寄付 物資の支給 食糧の支給	即効性あり 持続しない										
医師の派遣 病院の設立 教師の派遣 学校の設立 発電所の建設 貿易港の建設 農地の開拓 ごみ処理施設の建設	即効性なし 持続可能 ↓ 持続可能な社会へ										
	日本人ができる、発展途上国の支援について考えさせる。 発展途上国の支援について考えを広げさせる。	● 「あなたは貧困の連鎖を断ち切るために選ばれた、使命感に燃えるJICAの所長です。あなたはまず、どの分野の問題を解決するよう青年海外協力隊員に指示を出しますか？」というテーマで案を考案する。 ● グループ内で他者と意見を交流する。 ● 全体に紹介したい意見を選ぶ。 ● 全体に意見を発表する。	一斉 グループ 一斉	● これまでの学習内容に基づいて考えさせる。 ① 貧困の連鎖を断ち切る支援であること ② 持続可能な支援であること ③ 日本の特徴(経済力・教育力・技術力など)を生かした支援であること							
終末	JICAタイが行った主な支援を紹介する。 本時の学習を振り返る。	● 以下の支援とその効果について理解する。 <table><tr><td>● クロントーイスラムにおける図書館建設・書籍の配架</td></tr><tr><td>● レムチャバン港の建設</td></tr><tr><td>● サセティアンろう学校への教師の派遣</td></tr><tr><td>● APCDにおける山崎製パンの製造工場建設</td></tr><tr><td>● サイエンスハイスクールチョンブリ校の設立</td></tr><tr><td>● バンケン浄水場の設立</td></tr></table>	● クロントーイスラムにおける図書館建設・書籍の配架	● レムチャバン港の建設	● サセティアンろう学校への教師の派遣	● APCDにおける山崎製パンの製造工場建設	● サイエンスハイスクールチョンブリ校の設立	● バンケン浄水場の設立	一斉	● 各支援が、タイにどのような恩恵をもたらしているかを理解させる。 ● 途上国に対する支援の視点だけでなく、途上国と日本相互発展の視点こそ大切であることを理解させる。	
● クロントーイスラムにおける図書館建設・書籍の配架											
● レムチャバン港の建設											
● サセティアンろう学校への教師の派遣											
● APCDにおける山崎製パンの製造工場建設											
● サイエンスハイスクールチョンブリ校の設立											
● バンケン浄水場の設立											

(2) 授業の振り返り

これまでの段階的な指導により、本時において具体的な支援内容とその理由について適切に述べることができた。当初、「持続可能な社会を実現する支援」の必要性の指導をしたものの、その意味を正確に理解できている生徒は限られていた。そのため各自で意見を出させている時は、「募金や衣類の寄付」などといった持続可能でない支援を挙げる生徒も少なからずいた。しかしグループで意見交流を行うにつれ、次第に一人一人の考え方が深まり「浄水場の建設」、「教師の派遣」、「農地の開拓」、「働くための技術の伝授」などの意見にまとまっていった。

貧困や経済格差、内戦の勃発やテロリズムなどについて、中学生に十分な知識があるわけではない。それゆえ持続可能な支援を具体的に想像させるためには、世界の現状を分かりやすく視覚的に捉えさせる必要があった。緊急の支援と持続可能な支援、双方が国の状況によって必要になってくることや、その国その国に、今求められている支援が何かを考えること重要であることを理解させるためには、教師が途上国の現状、貧困の連鎖の問題、JICAの存在とその支援の在り方など、多くの情報を提示し、知識を与えること、そして何よりも生徒同士に意見を交換させる時間が必要不可欠であった。生徒は他人から意見を聞くことにより、思考を広げることができるようになった。

また、生徒はJICAの職員および青年海外協力隊員が、日本の経済力や自らの知識や技能を生かした支援を行っていることを知る。これは、学びの意義を再確認させるよい好機ともなった。「国が発展し、豊かな生活を送るために、そして身近な人たちから海外諸国の力になるために、今自分たちは学び続けなければならない。」などといった意見を持つ生徒も多くみられた。

(3) 使用教材

- 埼玉県立総合教育センター監修・JICA教材作成実行委員会編『国際理解教育実践資料集「教育が受けられないことで起こる“負の連鎖”を考える」
「学校に行けない」のカードを一番目に置き、そこからどのようにつながっていくか考えてみよう。
→ 貧困の連鎖についての指導に使用
- 自作教材『ワークシート①平等っていったいどういうこと？』
A君とB君は、学校が終わった後クラスメイトのCさんの家に遊びに行きました。Cさんのお母さんはケーキ作りが趣味で、「ホールケーキを作ったからみんなで平等に食べなさい」と言いました。ケーキをどのように分けることが平等かグループで話し合いの円に線を入れてみよう。また、A君、B君、Cさんの情報を参考にしてもよい。→ 平等について考えさせる指導に使用
- 自作教材『ワークシート②ダイヤモンドランキング』
あなたはJICAの職員になりました。JICAの職員として世界の様々な問題を解決するために、どの問題を優先して解決することが望ましいか、ランキングを作りなさい。その際、理由も明確に示しなさい。その後、各自がなぜこのようなランキングにしたか討論しなさい。
A 教師の派遣 B 浄水場の建設 C 食料の供給 D 農地の開拓 E 働く技術の伝授
F 医薬品の支給 G 医師の派遣 H 学校の建設 I お金の支給
→ 持続可能な社会を実現する支援の必要性の指導に使用
- 自作教材『ワークシート③急務！～貧困の連鎖を断ち切ろう～』
あなたは貧困の連鎖を断ち切るために選ばれた、使命感に燃えるJICAの所長です。あなたはまず、どの分野の問題を解決するようJICA職員、青年海外協力隊員に指示を出しますか？これまでの学習を通して、日本にできそうなことを考えてみよう。
→ 持続可能な社会を実現する支援についての考えを広げ、深めさせる指導に使用
- その他、感想文・意見文等を記入する自作の作文用紙

(4) 参考資料等

- 池田香代子著『世界がもし100人の村だったら』（マガジンハウス）
- JICA配信『Starting Line～協力隊の活動から得たもの（https://youtu.be/e_8PSXSPeQ4）
- 自作資料『貧困の写真「泥水を飲む女性」「内戦に泣く子供」「ゴミの沼を泳ぐ子ども」「ハゲタカに狙われる瀕死の子ども」』
- 自作資料『JICAの支援内容が判る写真「クロントーイスラムの図書館」「レムチャバン港」「美術教師の指導」「山崎製パンの支援」「サイエンスハイスクールチョンブリ校」「バンケン浄水場」※研修中に撮影』

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

本単元を通し生徒は課題について知識を深め、自らの考えを深められるようになった。以下に単元最後の作文を紹介する。

(1) 私たちが途上国にできること

私たちが途上国のためにできることは、浄水場やごみ処理場を建て、建設中には募金や衣食住の提供をすることである。

日本は狭く小さな国でありながら比較的ごみが溜まらず衛生環境がよいのはごみ処理場や浄水場があるからである。そしてそれらの施設は募金や衣食住の提供のように短期間でしか途上国に対して効果を発揮できないというデメリットを克服する性質を持つので、一回建ててしまえばその地域の環境問題は長期間なくなるだろうと思う。

しかし、その施設を建てるにはかなりの時間を要するというデメリットがある。それを克服するのが前半で述べた募金や衣食住の提供である。これらは調達してしまえば、短時間で現地に運べて、すぐに効果をもたらすという性質を持つので、すぐに効果を発揮できない施設の建設等と良い具合に組み合わせられるということなのだ。このような多面的な支援は途上国を効率的に発展させていくと思う。そしてこのような支援を実現するのは経済力や技術力を持った日本なのではないだろうか。

(2) 国際的視野に立って、自分が今やらねばならないこと

私は今回の授業を受けて、毎日の授業を大切にしていこうと思いました。現在、途上国では教育に恵まれていないことが多いので、その子達の方にも積極的に学習して、将来私が大人になった時に、日本の学校で学んだ知識を途上国の人達に教えてあげたいと思います。私の将来の夢は小学校の先生になることです。世界の問題を分かりやすく教えられたらと思います。

やっぱりそのためには今の勉強を意欲的に取り組んでいかなければなりません。日々の勉強を大切にしていって、途上国と自分の将来につなげていきたいです。また、募金などの自分にできることがあれば、途上国の発展に少しでもつなげていけるよう、協力したいと思います。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

(1) 成果

本単元の指導を終え、以下の成果を得ることができた。

【知識として身に付いたこと】

国家間の経済格差・発展途上国の貧困の現状・JICAと、その活動について

【考えを深められたこと】

- 貧困の連鎖を断ち切るためには知識や技術、経済力が必要であること
- 日本が働きかけなければならないこと
- 持続可能な社会を実現するための支援について
- 世界を支えるためには学びが必要不可欠であること
- 国際的視野に立って、自己の生活を振り返り、今後の生き方について考えること

海外のこと、世界の国々に興味を示す生徒は多いものの、これらについて知る機会は少ない。特に今回印象的だったのが、先進国のように裕福な生活を送っている人が世界の大部分を占めると思い込んでいた生徒が六、七割と、非常に多かった。途上国の支援についても、はじめは募金程度の案しか出てこなかった。しかし世界の現状の数値的な理解、視覚的な理解を踏まえ、生徒は自分たちがいかに豊かな生活を送っているか気が付いたようである。また、中学二年生は公民の授業を受けていないため、JICAの存在(ODAの存在)もほとんど理解していなかった。

このような状況であるため、生徒に日本の支援の必要性を実感させるには、はじめに世界の現状やJICAについての指導を徹底させることが重要である。「世界の中の日本」を正しく理解することで、途上国支援の必要性を感じ、支援の内容と学びの意義を真剣に考えることができるようになったのと思う。

(2) 課題および課題の改善策

① 他国の尊厳を守り、尊重する態度の育成

世界平和や人類愛などの道徳的観点を養うことはできたと思われるが、他国の尊厳について考えたり、尊重したりする態度の育成までには至らなかった。今後は諸外国の特色や異文化の素晴らしさを理解させたり、自他国が協力して何かを行うことの意義について考えさせたりすることのできる指導を行いたい。

② 後発発展途上国、発展途上国、中進国の状況のずれの理解

経済格差や貧困の状況を伝える際にはアフリカの後発発展途上国の現状を視覚的に捉えさせただけで、JICAの具体的な支援については中進国のタイ(今回の研修先であったため)で行われている内容を紹介した。それゆえ、生徒は中進国と後発発展途上国の差についてのみ考えることとなった。授業において生徒が意見として挙げていた支援についてはいずれの国にも共通するものであったものの、後発発展途上国、発展途上国、中進国の状況のずれの理解には至っていない。

③ 社会科との横断的な指導の必要性について

②に付随して考えるべきことだが、道徳や特別活動の授業として経済格差や発展途上国の現状について理解させるのは、時間的に限界がある。つまり社会科の地理の授業において世界の国々の地誌や現状、公民の授業においてODAの存在やその立ち位置、持続可能な社会の実現の必要性について指導をした上で、本単元の指導を行った方が効率的であるし、何より正しく世界の状況を把握できるようになる。国際理解教育の指導は社会科の基礎知識が必要である。道徳、特別活動等の枠にとらわれない、横断的な指導を心掛けていくことが重要であると感じた。

10 教師海外研修に参加して

JICAの支援には浄水場や商業港の建設、日系企業による支援の援助などの大規模なものから、個対個の心の繋がりを得られる青年海外協力隊のボランティアもある。双方ともに国と国との繋がりを強くするのに必要不可欠な要素であるのだ。今回の研修を終え、まず我々教員が途上国の苦しんでいる人々を救いたいという心の温かさで二国間相互の経済発展に寄与する活動を追及したいという二つ視野を持って、国際理解教育に従事することの必要性を強く感じた。